

オンラインヒューマンライブラリーについてと“本”のキーワードと「あらすじ」

ヒューマンライブラリーについてとタイムスケジュール

ヒューマンライブラリーとは

ヒューマンライブラリーとは「人を貸し出す図書館」。
その人の持っている属性・要素・特徴や価値観によって誤解や偏見を持たれた経験があったり、「生きにくさ」「世の中の多数とのズレ」を感じたことがあり、それを変えたいと思う人々が「本」となり、参加者が「読者」として、一対一または少人数で30分程度の対話をするイベントです。普段の生活の中では触れ合うことのできない多様な人々との直接的な対話を通して、自分の中にある誤解や固定観念への気づき等、多様な生き方を認め合っていくことを目指した取り組みです。
今回は、オンラインで完全予約制で開催いたします。各ブロックに2冊の“本”を用意しており、1冊の“本”に対して“読者”1～3名、学生司書1名で対話をさせていただきます。
ブロック1～8のキーワードより、興味のあるブロックを選び、お申込みください。

タイムスケジュール

当日のタイムスケジュールです。
13：00より開始となりますが、**12：50（時間厳守）**までにはログインしていただきますようお願いいたします。

入室（ログイン）可能時間	12：30～
あいさつ・流れの説明	13：00【開始】
セッション1	13：10～13：40
休憩	13：40～13：50
セッション2	13：50～14：20
あいさつ	14：20～14：30
アンケート入力	【終了】
希望者のみのふりかえり会	14：40～15：20

“本”のキーワードと学生司書

“本”のキーワード

- <ブロック1> 1. 中途四肢麻痺
2. スタージウェーバー症候群・発達障がい
- <ブロック2> 3. 通信高校出身・不登校
4. 発達障がい・LGBTer・パンセクシャル
- <ブロック3> 5. 双極性障がい・発達障がい
6. 聴覚障がい※1
- <ブロック4> 7. アセクシャル
8. 心の病 女装家
- <ブロック5> 9. うつ・適応障がい
10. JKママ
- <ブロック6> 11. 慢性疲労症候群・獣医師
12. ひきこもり・自殺未遂・アルコール依存症
- <ブロック7> 13. 先天性眼瞼下垂症
14. 不定性Xジェンダー・パンセクシャル
- <ブロック8> 15. ペルテス病・留学・就職難民
16. デートDV

※1 <ブロック3>では、聴覚障がいをお持ちの方が“本”となるため、チャット機能を使用しての対話となります。

学生司書と「あらすじ」

図書館には「司書」が必要です。今回のヒューマンライブラリーは新潟青陵大学・短期大学の有志23名が「司書」となり運営にあたります。
また、「司書」たちは「多様性」について勉強をしながら、「本」の方ひとりひとりにインタビューをし、その方々のライフストーリーを自分たちの言葉で「あらすじ」としてまとめています。次ページよりご覧ください。
こちらの「あらすじ」は申込サイト「Peatix」と「ヒューマンライブラリー新潟」のフェイスブックでもご覧いただけます。

※あらすじ内の「しょうがい」の「害」・「がい」の表記につきましては、学生司書と「本」の方で選択した表記で掲載しております。

<ブロック1>

1. 中途四肢麻痺
2. スタージウェーバー症候群・発達障がい

1. 車椅子とヘルパーさんとの出会い

～ステレオタイプ・偏見のない世界を求めて～

【あらすじ】

大学3年の冬に部活の遠征帰りで友達が運転する車が交通事故に遭いました。その事故が原因となり頸椎を損傷し首から下がほとんど自由に動かなくなったのです。頸椎損傷は現在の医療では治すことができません。当時ショックを受けました。その後、入院先の病院で同じ障がいを持った方と出会います。その出会いが山内さんの人生を大きく変え自立生活センターそして24時間ヘルパーの存在を知ります。現在は自分の力で団体を立ち上げ「なにか同じ障がいを持った方の役に立ちたい！」と思い活動して、ヘルパーと共に自分の力で過ごされています。あなたは中途四肢麻痺と聞きどう思いますか？あなたにしかできないことが見えてくるきっかけになると思います。

山内 俊博 さん

【司書からのひとこと】

四肢麻痺と聞いて重い障がいのイメージで身構えてしまうかもしれません。ですが、山内さんとお話していると今の状態を楽しんでいるように見えます！ライブにもいったりしているそうで…！「障がいを克服するとよく言うけど闘う必要はない、一緒に生きていけばいい」という山内さんの言葉に障がいとは「克服する、乗り越えるが正解」という偏った考えをしていたことに気づきました。山内さんにどんどん質問して新しい価値観や考え方を発掘するきっかけになると思います！

【キーワード】

#中途四肢麻痺 #24時間ヘルパー #ピアカウンセリング

2. MIX ～たくさんの“個性”を抱えて生きる～

【あらすじ】

生後間もなくスタージ・ウェーバー症候群だと診断された齋藤さんが、自身の病気を理解したのは2,3歳の時。幼稚園の同級生に顔のあざのことを言われ、自分は変なんだ、と気づいたそうです。スタージ・ウェーバー症候群は難病の一つで、生まれつきの顔の赤あざが特徴的です。症状は人によって違いますが、齋藤さんの場合は緑内障やてんかん、発達障害などを伴っています。見た目で見えたり、発達障害のため苦労をしたりしてきました。今までに何度も手術を受けていて、現在も治療は続いています。見た目や障害だけでは判断できない、齋藤さんの個性をのぞいてみませんか？

齋藤 美希 さん

【司書からのひとこと】

お母さんゆずりの“ぼやぼやした”天然さを持っているお茶目な齋藤さん。取材時、私たちの言葉をゆっくり咀嚼して、わかりやすく話して下さるのが興味深く、もっと齋藤さんのことを知りたいと思いました。好きな音楽の話もして下さって、真剣でとても楽しい時間でした。タイトルとハッシュタグの“MIX”は、様々な症状があるスタージ・ウェーバー症候群にちなんで齋藤さんご自身が考えたものです。音楽を聴くだけでなく、趣味でピアノやギターを弾いたりするのが好きだという齋藤さんの個性や独特なテンポを、ぜひ、皆さんも楽しんでください。

【キーワード】

#スタージ・ウェーバー症候群 #血管腫 #成長異常 #発達障害(ASD)
#緑内障 #てんかん #あざ #MIX #見た目問題 #音楽大好きバカ #天然

<ブロック2>

3. 通信高校出身・不登校
4. 発達障がい・LGBTer・パンセクシャル

3. 普通高校が当たり前なのか…？

【あらすじ】

皆さんは通信制高校についてどのようなイメージがありますか？奈央さんは、小学校2年生の終わり頃から不登校になってしまいました。そして、高校では進学校に通いましたが、そこでも学校に行けない状態が続きました。そんな時に奈央さんのお母さんが「通信制高校もあるよ」と教えてくれました。見学に行き、そこで素敵な校長先生に出会い、私立の通信制高校に転校しました。奈央さんは、遅刻して学校に行くことや、保健室に行くことが自分の中で許せません。そのような事がない通信制高校に出会い自分のことを認められるようになりました。通信制高校とは実際どのような学校なのか、奈央さんはどんな高校生活を送っていたのか、色々なお話を聞くことができます。

矢田 奈央 さん

【司書からのひとこと】

私の友人も通信制高校に通っていた為、学校について存在は知っていましたが、たまに学校に行くイメージしかありませんでした。しかし、奈央さんの通っていた学校についてお話を聞き、先生が自分の考えを認めてくださる場所であり、良い環境であると感じました。私の中で通信制高校って楽しそう、いいなとイメージが変わりました。皆さんも、奈央さんからお話を聞き、自分の中の通信制高校のイメージを再確認してみてくださいませんか？

【キーワード】

#不登校 #通信制高校出身 #本を読むことが好き

4. マイノリティを“知る”ということ

【あらすじ】

発達障がいとLGBTの2つのマイノリティを持つ柊屋さんは、幼少期から落ち着きのない行動や人間関係など苦手なことが多く、仕事のミスに対する叱責や自信の喪失などから29歳でうつ病を発症し、31歳で自身が発達障害であることが発覚しました。「発達障害の特性である愛着や自己肯定感に関する問題から」とにかく誰かに今すぐ愛されたい」と考えるようになり、それがパンセクシャルに繋がったのだと思う」と柊屋さんは言います。発達障害やLGBTというマイノリティに対する家族や周りの友人、社会からの厳しい目から生きづらさを感じてきた経験を活かし、現在は様々な場所で講演や居場所づくりのスタッフとして奔走している柊屋さん。マイノリティに対して、改めて一緒に考えてみませんか？

柊屋 清則 さん

【司書からのひとこと】

「マイノリティなんて聞き慣れないし、身近には存在しない」と思っていませんか？家族や友達の特性について、理解していますか？実は身近に、その特性で差別を受けたり、苦悩している方が潜んでいるかもしれません。私は柊屋さんとお話をして、自分自身でも無意識に抱えていた偏見に気付くことができました。あなたが非日常と考えていたことが今日から日常に変わるかもしれません。ダブルマイノリティである柊屋さんのお話は、皆さんの人生観を大きく変えるきっかけになると思います。

【キーワード】

#発達障害 #LGBT #ダブルマイノリティ #パンセクシャル



<ブロック3>

- 5. 双極性障がい・発達障がい
- 6. 聴覚障がい

5. 2つの障害と向き合い、第二の人生を

ちひろBLUES さん

【あらすじ】

お芝居や絵の作品展、トークイベントなど、様々な活動を精力的に行っているちひろBLUESさんは、双極性障害（躁うつ病）と発達障害があります。大学生の頃に周りの学生のように“自分の人生を決める”ことができないなどのストレスから双極性障害を発症し、その後就職するも人間関係や仕事のミスから仕事を辞めてしまい、20代で発達障害であることが発覚します。「今まではミスなどを責めてきたが“障害”と分かったことで自分自身に向き合おうと思えた」とちひろさんは言います。現在は自身の障害と向き合い、様々な活動を通して第二の人生を送っているちひろさんのお話を聞いて、双極性障害や発達障害について、そして皆さん自身の人生の送り方について考えてみませんか？

【司書からのひとこと】

インタビューを行うことになり、最初は緊張していましたが、ちひろさんの優しい雰囲気のおかげでリラックスしてお話をすることができました。双極性障害に発達障害、また様々な表現活動を経験されているので、全部聞こうとすると時間が足りません…！今の夢はトークイベントの内容を文字にして本を出すことだそうで、実現したらぜひちひろさんが執筆された本を読んでみたいです。その本が出版される前に、ちひろさん自身の物語読んでみませんか？

【キーワード】

#双極性障害 #発達障害 #トークイベント

6. 聞こえているけど聞き取れない

菊地 えり子 さん

【あらすじ】

小学校入学時に聞こえが悪いと判明した菊地さん。それから高校まで教室の指定席は最前列の真ん中、教壇の前でした。補聴器を勧められたこともありましたが、使用せず生活を続けてきました。大学に進学するも、初めての挫折を経験します。その後専門学校でデザインの勉強をし、印刷会社に勤務、結婚を機に退社してからは主婦業まっしぐらに過ごしてきました。

そんな中、菊地さんはあるものと出会い、自分の障害を認められるようになります。音の区別がつきにくい菊地さんにとって話の内容が分かる感動とコミュニケーションの曖昧さに気づいたあるものとは…？

生活する上で不便なことや、聞き間違いも多くありますが、グリコのような「一粒で二度おいしい」菊地さんの物語、聞いてみませんか？

【司書からのひとこと】

Zoomでのインタビューでは、こちらからの質問などは全てチャットで行いました。静かな空間でのHLはなんだか新鮮で、穏やかな雰囲気がとても心地よかったです。お話していく中で、今までにあった聞き間違いエピソードをお聞きしたのですが、それが面白くて、今でも思い出すとクスツと笑ってしまいそうです、。一見普通に見えても、実は難聴を抱えている方もいることを知っていただきたいです。笑顔が素敵な菊地さんとのチャットでの対話を皆さんも楽しんでください！

【キーワード】

#聴覚障害(中途度難聴) #要約筆記

※ <ブロック3> 菊池さんとの対話はチャット機能を使用します。

<ブロック4>

- 7. アセクシャル
- 8. 心の病・女装家

7. 10分の1の恋愛感情

～人それぞれだからこそ伝えたい～

金井 美希 さん

【あらすじ】

金井さんは、高校生の頃から自分はLGBTにあてはまると思い、大学入学後、あるコミュニティに参加しました。その時、自分は「アセクシャル」なのかもしれないと思ったそうです。そして大学2年生の時に自分を「アセクシャル」だと自覚した金井さん。「アセクシャル」とは一般的に無性愛というもので、他者に対して恋愛感情や性的感情がないと言われていますが、個人差により定義が変わってきます。金井さんの場合は、恋愛感情があります。ですが一般の人の抱く恋愛感情が100だとしたら金井さんは10くらいしか抱けないそうです。さまざまな恋愛の形がある中で金井さんの語る「アセクシャル」について聞いてみませんか？

【司書からのひとこと】

私は金井さんのお話で初めてアセクシャルについて知ることができました。そして、大まかな定義はあるけれど程度は人それぞれだということを知りました。また、アセクシャルに関するお話を中心にセクシュアルマイノリティの選択についてなど、幅広くお話してくださいました。金井さんはとても優しい口調で分かりやすく説明をしてくださる姿が印象的な方です。そんな金井さんのアセクシャルについてもっと知ってほしい、という想いが伝わってくるお話をぜひ読んでみませんか？

【キーワード】

#アセクシャル #LGBT

8. 最幸(さいこう)な人生を見つけるために、、、！

Kacco さん

【あらすじ】

サラリーマンをしていた28歳の時、会社に行くとき動悸やめまいなどの症状が出始め、気がつくと会社のトイレに籠るようになり、精神科へ行くことと摂食障害と診断。改善するために入院し、退院したが3ヵ月で再入院することに。検査の結果躁うつ病、パニック障害を併発していることが診断された。その後引きこもるようになり、人との接触を避けていたが、旅行会社の方からパンフレットのイラストを描いてほしいと依頼が、、、その依頼をきっかけに、色々なことに挑戦していくようになるKaccoさん。今では講演会を開いたり、ヒューマンライブラリーに本として参加したり、たくさんの活動をしている。30分では足りないほど聞きたくなる会話術、、、気になる！！

【司書からのひとこと】

私は初めて女装家の方とお話をしましたが、お話を聞かせていただいた時、「何でも聞いていいよ」と言ってもらえてお話しやすかった感じがとても印象的で、持っている女性もののお洋服もたくさん見せていただきました！Kaccoさんの経験や活動はたくさんあり、本当に30分では足りない、と感じてしまうほどです。この機会にぜひKaccoさんのお話を聞いてみてください！

【キーワード】

#摂食障害 #躁うつ病 #パニック障害 #引きこもり #女装家

<ブロック5>

9. うつ・適応障がい

10. JKママ

9. 適応障害で悩まされた人生

～救ってくれたのは一匹の猫～

あいにゃんさん

【あらすじ】

皆さんは「適応障害」についてどんなイメージがありますか？人の目を気にして外に出ることができない、自分の言いたいことを言えない。あいにゃんさんはこのような状態でした。社会人になり、職場でのいじめが原因で2年間ひきこもりになりました。そんな時に一匹の猫がやってきます。その猫がきっかけで少しずつ外に出られるようになりまし。バドル時代では「人の目を気にする」という考え方を考えることができました。現在は、猫の雑貨屋さんを開いており、猫の被り物を被ってたくさんの人を笑顔にしています。「人の目を気にする」これは皆さんもあるのではないのでしょうか？あいにゃんさんのお話を聞いて適応障害について考えてみませんか？皆さんの考え方が変わり、勇気や元気が出ることに違いありません。

【司書からのひとこと】

あいにゃんさんは猫が大好きで、自分の猫に寄せたオーダーメイドの着ぐるみや、ハンドメイドでイヤリングやピアスなども作っています。あいにゃんさんはバドルの経験もありとても笑顔が素敵です。人の目を気にしてしまう人は多くいると思います。反対に、人の目を気にしない人はどのくらいいるのでしょうか？あいにゃんさんのお話を聞いて共感する部分もあると思います。皆さん是非聞いてみてください。

【キーワード】

適応障害 # うつ病 # ひきこもり # 着ぐるみ

10. 未成年での妊娠と出産

～子どもができる年齢に正解はあるのか～

とがしりおかさん

【あらすじ】

とがしさんは16歳で妊娠、17歳で出産を経験しました。初めて妊娠が分かったときは「これは大変なことになったな…」と思い、親友にさえ言いづらかったそうです。また、妊娠が分かった初めの頃は、出産をせずに中絶することを考えていました。ですが、旦那さんの出産に対する前向きな想いのおかげもあり、出産することを決断しました。現在、18歳のとがしさんは2人目の子どもを妊娠中です。JKママとして未成年の妊娠や出産についての講演会も行っています。未成年が出産することに対して偏見が多すぎる日本で、そういった風潮を良い方向に変えていきたいと考えています。そんなとがしさんの貴重なお話をぜひ読んでみませんか？

【司書からのひとこと】

皆さんは未成年の妊娠についてどのようなイメージを持っていますか？私はドラマの中の話でしか聞いたことがありませんでした。学校側は退学しろ、病院側の第一声は「どうするの？」であり、祝福の言葉が出てこないとお聞きし、日本では未成年の妊娠について偏見があると思いました。しかし、旦那さんは前向きな考えを持っている素敵な方で、このような方が増えてほしいと思いました。とがしさんのお話はとても貴重でした。皆さんもとがしさんのお話を聞き、未成年の妊娠についてのイメージを見直してみませんか？

【キーワード】

JKママ # 未成年妊娠 # 未成年出産

<ブロック6>

11. 慢性疲労症候群・獣医師

12. ひきこもり・自殺未遂・アルコール依存症

11. 難病と向き合い幸せを掴む

近藤 菜津紀さん

【あらすじ】

あなたは慢性疲労症候群という病気を知っていますか？近藤菜津紀さんは中学生の頃にインフルエンザがきっかけで、この珍しい病気を発症しました。極度の疲労や痛み、歩行困難などの症状があり、眠っていると気付けば数日間も経ってしまう「浦島太郎状態」になることもあるそうです。今までに何十軒もの病院に行きましたが、この病名が明らかにならなかったため、昨年まで苦しい日々を送られました。また、仕事が趣味だとおっしゃる近藤さんは獣医師としてご活躍されており、現在は2歳のお子さんと毎日楽しい日々を過ごされています。合併症を抱える近藤さんの生活は、私たちには想像できない多くの工夫があります！ぜひ近藤さんのお話を聞いてみませんか？

【司書からのひとこと】

知れば知るほど大変そうな「慢性疲労症候群」の症状。しかし、近藤さんはそんな大変さを感じさせないような優しい笑顔で、私たち学生司書と楽しくお話をしてくださいました！病気になり、生きていく上で様々な場面(勉強、子育て、家事、仕事などなど……)で困難があるけれども、近藤さんは一つ一つの物事において目標を持ち、それに伴った近藤さんなりの工夫や考え方を見つけ出しながら、日々を楽しんで過ごされているようでした。私達にも人生において様々な困難に立ち向かわざるを得ない時がたくさんあると思います。その困難は病気にも限らないことだと思います。そんな時には近藤さんの「何かと闘わずして、自分なりに工夫をして、幸せを掴もう！」というような前向きなスタンスを参考にしてみてはいかがでしょうか？そんな生き方を参考してみたい方は、是非近藤さんの「闘わない方法」などを質問してみてください！

【キーワード】

#慢性疲労症候群 #獣医師 #浦島太郎

12. お酒という名のドラッグ

八神 蓮花さん

【あらすじ】

人を楽しませることが好きな八神さんは、お酒の力を借り、周りが求める「明るい自分」を演じていました。丸一日、血が出るほど飲む日もあり、お酒に溺れるようになった結果、精神バランスを崩し、引きこもりになりました。両親に迷惑をかけてしまったという罪悪感から、世の中から消えたいと思うようになり、二度の自殺未遂。「自殺してやる!」と叫んだ時もあったそうです。入院中は、自分を見つめなおす期間となり、お酒をやめることができました。現在は、「絆 BACE CAMP」という団体の代表を務め、悩みを抱える人への助け舟を出しています。八神さんにとってヒューマンライブラリーは自分の過去を振り返れる時間だそうです。そんな八神さんの過去にタイムスリップしてみませんか。

【司書からのひとこと】

八神さんのお話は、一度の人生では経験できないくらい濃く、たくさんの出来事が詰まっているため、インタビューの時間があっという間に過ぎました。取材前は、とても緊張していましたが、八神さんが気さくな方なので、一瞬で緊張がほぐれました。経験者だからこそ語れる八神さんのお話をたくさんの方に聞いて頂きたいです！

【キーワード】

自殺未遂 # ひきこもり # アルコール依存症



<ブロック7>

13. 先天性眼瞼下垂症

14. 不定性Xジェンダー・パンセクシャル

13. 眼瞼下垂という病気を受け入れ、好きになるまで

フレイク さん

【あらすじ】

フレイクさんは生まれつき眼瞼下垂(がんけんかすい)という瞼が上がらない病気を持っています。幼少期はいじめを受けましたが、自分の見た目の問題を認めてくれる友人と会うことでご自身の病気を好きになり、手術をしない選択を選びました。そして数年前、職場でパワハラを受けた際に「原点回帰」と書かれた旗を見かけ「自分の好きなものに関わる仕事をしたい！」と思い、現在では、子供たちに昆虫や自然観察の魅力やワクワクを伝えています。またフレイクさんは患者会を設立し、他の眼瞼下垂で悩む人たちと交流会を開いています。フレイクさんは物知りで昆虫や自然のことならなんでも知っています！あなたもぜひ昆虫博士になりませんか？

【司書からのひとこと】

フレイクさんは昆虫博士で、Zoomでのやり取りでは、ほとんど自然や昆虫のお話をして盛り上がりました。一緒にカエルの鳴き声を真似したり、色々な昆虫についてお話したり、とても楽しい時間を過ごしました！またフレイクさんはYouTubeで紙芝居「スーパーカエルマン」をされています。とても面白いのでぜひご覧になってみてください！

【キーワード】

#眼瞼下垂 #見た目問題 #スーパーカエルマン

14. みんなの「普通」説明できますか？

～「普通じゃない」って言わないで～

【あらすじ】

花音さんは中学生の時、女の子を好きになったことをきっかけに、自身でネットから調べたことで自分のセクシュアリティに気づきました。LGBTの言葉を今ではよく聞くようになってきたと思いますが、LGBTの他にもセクシュアリティがあることをご存じでしょうか？花音さんは日によって自分の性が男性だったり女性だったり性が定まらない不定性Xジェンダーと、パンセクシャルという性別に関係なく人を好きになれる属性を持っています。花音さんは自身のセクシュアリティを友だちやご家族にカミングアウトし、様々な反応がある中、「カミングアウトしたことで良かったことの方が多かった」とお話してくれました！また、花音さんは「相手に受け入れてほしいのではなく、まずは私のような人もいるということを知ってほしい」と語ってくれました。世間で当たり前とされているセクシュアリティが存在する中、自分らしく生きる花音さんの本を読んであなたの中にある当たり前を一度壊してみませんか？

【司書からのひとこと】

インタビューでは、好きな芸能人の話や様々な話題で盛り上がりました。時間は一瞬で過ぎ、とても楽しく笑顔溢れるインタビューになりました。私は、常に自然体でいる花音さんに魅了された一人です。みなさんもきっと花音さんの自分らしく生きる姿に魅了されること間違いなしです！！

【キーワード】

#不定性Xジェンダー #パンセクシャル #LGBTQ+

<ブロック8>

15. ペルテス病・留学・就職難民

16. デートDV

15. 多くの困難に立ち向かって、、

やんやん さん

【あらすじ】

男性の100人に1人が患うと言われている足の骨が溶けていく病気、ペルテスを患っていた。そのため保育所に通うことも出来ず幼少期は装具をつけて家で生活していた。小学生の頃は学校に通っていたが、発達障害などもあったためいじめを受けていた。高校生の頃にアメリカに留学経験があり、大学でもアメリカに約1年留学していた。その後就職氷河期のために仕事が見つからずバイトで塾の先生をしていた。その後、台湾での塾講師をやらないかと勧められ、台湾で塾の講師をしていたが、理系が苦手なため生徒や親御さんからのクレームが多いうつ状態に陥った。その後日本に帰国したが、帰国後も様々な困難があり葛藤の日々が、、

【司書からのひとこと】

やんやんさんは様々な困難を経験していて、留学や就職難民など、現在の私達だけでなく、もっと若い世代の方々にも為になるお話が多いです。また、とても気さくな方なので、お話を聞いていると私達ももっと頑張ろうという気持ちになりました。是非皆さんもやんやんさんのお話を聞いてみてはいかがでしょうか。また、留学や就職で悩んでいる方も自分の中で何かが変わるのではないのでしょうか。

【キーワード】

#ペルテス #留学 #就職難民 #発達障害

16. 相手から離れられない状況で、

好きな人の暴力からあなたはどやって逃げますか？

高橋 満喜子 さん

【あらすじ】

家族関係から家を出たいと感じた高橋さんは、23歳の時にネットで知り合った人と交際し、同棲するために、退職して、家出同然で彼の住む青森へ行きました。幸せになりたいと思った高橋さんでしたが、同棲して1か月が経った頃から彼の様子が一変し、DVを受ける日々が始まりました。当時、その状況を変に思うことが出来ず、暴力を振るわれないために緊張し堪える日々に、心に限界を感じ、警察などにも相談しましたが、理解を得ることができませんでした。現在の旦那さんとの出会いや家族の関りによって状況は一変しましたが、消えないデートDVの経験から自分を理解し、当時の思いを胸に今も女性に寄り添う活動をされています。このような活動をされている高橋さんを「読んで」みませんか？

【司書からのひとこと】

取材中、笑顔が印象的ではつつとした印象を受けました。ご自身の属性について様々なことを素直に表現しながらお話ししていただき、私たちの経験やどうしたらよいのかなど経験を踏まえたアドバイスをして頂くこともありました。デートDVのつらい経験を封じ込めるのではなく、それらを踏まえた活動への原動力にするなど行動力もあり、繊細でありながら力強い面を見ることもできるかも…？

【キーワード】

#デートDV #自分を理解できた #トラウマ